

# 日本移植学会 2018 年症例登録 統計報告

Japanese Transplantation Registry  
2018 Annual Report

一般の医療は患者と医療者で成り立つが、臓器移植については第三者である臓器提供者があって初めて成り立つ医療である。2012年にiPS細胞の発見で中山伸弥教授がノーベル賞を受賞した際には、何年かするとiPS細胞から臓器が作られ移植できるような夢物語が語られたが、残念ながら臓器は作り出されていない。

臓器移植のための臓器は、親族による生体からの提供と匿名の亡くなった方からの提供があり、いずれも尊い意思によるもので、提供された臓器によって多くの患者が救われている。この尊い意思に答えるために、臓器移植の成果は広く一般に公表されなければならない。

これまで日本移植学会は、全臓器移植症例の登録、集計とその成果の公表を学会の重要事業として力を入れてきた。当初、臓器ごとの移植症例の登録はそれぞれの移植研究会で登録と追跡が行われてきたが、2009年より日本移植学会登録委員会の事業として全臓器移植登録に対応し、臓器ごとの移植研究会で集計・解析された臨床統計データは年に1回日本移植学会誌『移植』に掲載している。

日本移植学会の臓器移植登録は、かつては年1回登録用紙を用いて行われていたが、2009年から厚生労働科学研究で腎移植登録の電子化が始まり、2014年に全臓器でのインターネット登録システムが完成した。これによって、リアルタイムで詳細なデータを間違いなく入力することができ、迅速な登録データの公表が可能になった。しかし、このシステムにより移植時の登録が漏れなくできるものの、追跡データの入力にはデータ入力の締め切りがなくなったため、一部の臓器では追跡データの入力率が極めて低くなった。しかし、前述の通り、臓器移植の成果は広く一般に公表されなければならない。このため、臓器移植の症例登録と追跡登録を義務にすべきとの考えがあり、検討を行っている。

日本移植学会誌『移植』は2014年より紙媒体の雑誌の発行はなく、完全なオンラインジャーナルとなり、<https://www.jstage.jst.go.jp/browse/jst/-char/ja>にて閲覧できる。全ての臨床登録データは、この電子ジャーナルに納められPDFとしてダウンロードもできる。

本報告は、全国の移植施設からの報告をまとめたものであり、一例一例を登録された全国の移植施設の登録担当者に感謝し、それをまとめた各臓器の登録委員の方々に感謝します。

日本移植学会登録委員会 委員長  
国立病院機構水戸医療センター 臓器移植外科  
湯沢賢治

## 目 次

### 【1. 臓器摘出】

わが国における臓器移植のための臓器摘出の現状と実績（2019）

日本移植学会登録委員会 ..... 53

### 【2. 腎移植】

腎移植臨床登録集計報告（2019）

2018年実施症例の集計報告と追跡調査結果

日本臨床腎移植学会・日本移植学会 ..... 61

### 【3. 肝移植】

肝移植症例登録報告

日本肝移植学会 ..... 81

### 【4. 心臓移植】

日本における心臓移植報告（2019年） 日本心臓移植研究会 ..... 97

### 【5. 肺移植】

本邦肺移植症例登録報告—2019— 日本肺および心肺移植研究会 ..... 105

### 【6. 膵臓移植】

本邦膵臓移植症例登録報告（2019） 日本膵・膵島移植研究会膵臓移植班 ..... 111

### 【7. 膵島移植】

膵島移植症例登録報告（2019） 日本膵・膵島移植研究会膵島移植班 ..... 121

### 【8. 小腸移植】

本邦小腸移植症例登録報告 日本腸管リハビリテーション・小腸移植研究会 ..... 129

### 【9. 造血幹細胞移植】

本邦における造血幹細胞移植 2018年度全国調査より

日本造血細胞移植データセンター・日本造血細胞移植学会 ..... 135